

1976. 1. 14

東京蜘蛛談話会

11月18日に談話会通信No.8受領の通知を小澤繁樹氏よりうけとりまして、通信を発行して1年になろうとし、感謝が深い由、発行者も運営委員も同感です。また、会員名簿を作った下された梅林氏にも心から感謝されているとのこと。これは、会員全員、同感と存じます。

11月20日には、佐入間良三氏が通信記事を送られました。

<<クモに関する小記事>>朝日新聞 11月7日(金)2面(夕刊)「小さな天地 創り造る 西之島新島」

一前略一 1883年誕生のジマフ・フラカウ島噴火が終って9ヵ月で、クモが巣を張った。中根(猛彦)さんの説明、「クモは糸を風に流して飛ぶ。西之島新島にもよく採せばいたかもしれないよ。」一後略一

(西之島新島取材班)

佐入間氏はKISHIDAIA No.40に生態観察記録を投稿なっています。No.40にご期待下さい。

鈴木勝浩氏から、中学1年のときから3年間続けて来た「クモの研究」をまとめて、日本学生科学賞(1975年度)に出品したところ、埼玉地区において、県知事賞を受かれた由、11月22日にお便りをいただきました。また、その一巻をKISHIDAIA No.40に投稿していただきましたので、成果について、先輩の意見も知らせていたたいと思います。出品の内容は「埼玉県北蕨市郡松伏町におけるクモの採集」(77種の記録)、「クサクモの一生」、「クサクモの個体数変化(季節による)」、「クサクモの環

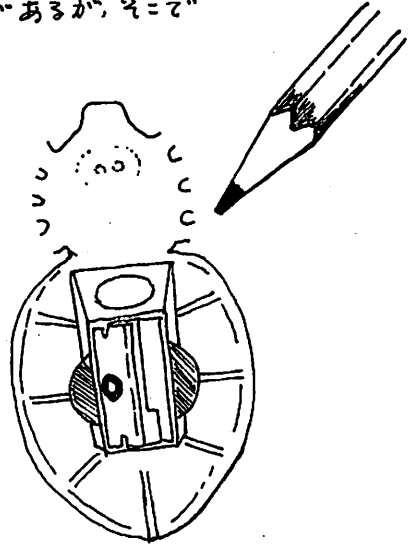
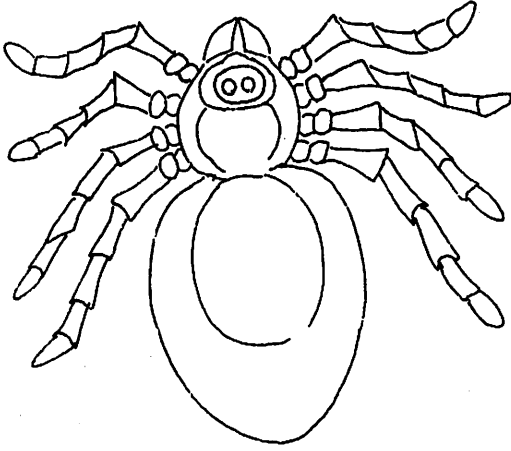
境に対する網の変化」、「ジクモの環境変化に対する網の変化」などとのこと。これらのうち、「クサクモの一生」についてKISHIDAIAで発表してもらいました。No.40にご期待下さい。なお、今年になって、上記の出品物は、全園芸大会で3位入賞とのこと、連絡していただきました。今後も、一步一步確実に、研究していただきたいと思います。

高橋米次氏は、週刊ポスト Vol.6, No.36(通巻No.265)S.49年9月13日発行、130円、を談話会に御寄贈下さいました。当該pp.66~70に、小沢昭一四畳半むしあぶり対談⑩があり、尾崎雙呂詞氏(唐食師)との対談が載っています。内容をクモについてご紹介いたします:一タイトル:女郎クモの沼揚げは独特の甘さがありますよ。とあり。料理法は、女郎クモ、鬼クモ、大オウのかみ、これを、といたメリケン粉の中を歩かすと、みずからまぶされるので、熱したテンノウ油に入れると、いったん沈んで、今度はアウをぶきながらのほうで来る。アウをひきかたせ女郎クモの沼揚げがこれであるとの由。味は独特の甘さがあり、サルよりおいしい(サレさどうも脂肪が少ない)とのこと。

無理することはありませんが、一度試められるのもよいかもしれません。腐食性・毒性でない動物なら、カマ揚げ、テンノウは一般的料理法です。東京蜘蛛学会のATYPLUSにも、クモをたべた話か、のっていました。某氏は、かわいそうで、たべるとはできないといっていました。いっつか、パーティをしてもいいですね。

クモの鉛筆けずり

有楽町にアメリカンファーマシ...というお店があるが、そこで



CREEPY-Sharpenerなる、クモの恰好をした鉛筆けずりを見つけた。MADE IN U.S.A。上図のような形態を有し、体長50mm程、全身緑色をしている。ハ本沼先生によれば「新種であるとのことだ。(H.O.)
長い名前ですか、Plasticaraneus pencilphagous とでも呼びませんか?(S.M.)
(本誌からいかにクモじやないという人がいるかもしれません)

冬の間近所の川原で...

昨年12月7日、三会合同例会の席上で、高野伸二氏より、左の切り抜きをいただきました。「古老喜び女はキヤー」とは何かと思ったら、女郎クモだったとあらわられています。1975年11月24日付の朝日新聞の記事です。左の絵は、よくみると6本足ですね。(喜びの気がつきました。)

古老喜び女はキヤー

産見島



産見島の産見島に...

訂正
談話会委員名簿中の
長島忠義氏の〒番号
100-26を100-21
にして下さい。連絡ミスで
す。申し訳ありません。

東京蜘蛛談話会蔵書目録

(コピーに依ります。申し込みは早め向うで)

No. 48. 東京蜘蛛学会(1974) ATYPUS No. 62, 52 pp

第5回大会講演要旨: 東南アジアの *Nephila* と *Nephilengas* について(萱嶋泉); ハリケコモリグモヒキの一近似種について(田中穂積); 日本産ナミハグモ亜科について(小本敏宏); ヤチグモ類の分布(西川善朗); 南西諸島のサトウシジミ類(鈴木正博); 東北の蜘蛛所見(特に宮城県のクモを中心に)(千国守之輔・片岡佐太郎); 樹上におむサカラグモニモ(菅木淳一); 京都府聖原の宅地庭園における造園性クモ群集の研究(本田重義); アオオビハエトリトアリ(井伊伸夫); コモリグモの徘徊行動力について(オー報)(藤井晴浩); オーストラリアのクモの生態(Mark Stowe); 秋女多摩国立公園内の洞穴性クモ類(新海栄・権田重雄); *Telemidae* のクモ日本にも産する(八木沼健夫); ノコギリヤステの研究(II)(入江照彦); 押しつぶし法による真正蜘蛛類の染色体観察(近藤昭夫・五十嵐広明); イソカニムシ成体卵巣の組織構造とその変遷(牧園俊樹); ヒラタグモの腹部斑紋の変異について(清水裕行); 東京蜘蛛学会第5回大会概況.

論文・資料: ドヨウオニグモの白帯と占生学勢(中平清); 九州中・北部のキムラグモの生息分布(木庭泰); 静岡県梅ヶ島温泉のクモについて(小林久俊); 再び蜘蛛学に目覚めるまでのふし記(星寛比古); LIBRARY(学会図書・クモの文庫)

49. 貝谷憲治(1973)三重県南部地方の真正蜘蛛類目録。三重生物, (23): 49-64

50. 三重クモ談話会(1973)しのびぐも 第1号. 24pp.

「しのびぐも」発刊によせて(太田定浩); クモを飼った2・3の実験(水谷廣治); いろいろな棲息場所における真正クモ群集(貝谷憲治); 昭和48年度事業報告; 三重クモ談話会規約; 会費又請; 昭和48年度決算報告.

51. 渡村清三(1972)栃木県の動物と植物, 19. クモ類. 栃木県の動物と植物, pp 509-525.

52. 東京蜘蛛学会(1973) ACTA ARACHNOLOGICA 25(1); 1-40
Two New Spiders of the Genus *Sarutana* (Leptonetidae: Araneae) from Shizuoka Prefecture (Hisatoshi Kobayashi); 近畿における水田に生息するクモ類の生態学的研究(I)(ヒシジヤカニグモ およびヤマトノハグモの生活史について)(田中穂積); スズメバネグモの記(八木沼健夫); Electron Microscopic Observations of Chlamydia-like Microorganism in *Hepato*^{ato}pancreas Cells of the Spider, *Coelotes Puctuosus* (Kuruki Osaki); Seasonal Variations of Acari and Soil Nitrate (Somnath BANERJEE).

(談話会蔵書目録校)

53. 東亜蜘蛛学会 (1974) ACTA ARACHNOLOGICA 25 (2): 41-89
 A New Species of Coelotes (Araneae: Agelenidae) from Tottori Prefecture, Japan. (Tatsumi ARITA); A New Cave Spider of the Genus Speocera (Araneae: Ochyroceratidae) from Okinawa. (Toshihiro KOMATSU); 7モの直腸嚢 (rectal bladder) の機能に関する研究 (上田吉郎); Neurosecretory Cells and their Ultrastructures of Rhipicephalus sanguineus (LATREILLE) (Acarina: Ixodidae) (Y.S. CHOW and C.H. WANG); Qualitative Composition and Seasonal Fluctuation of Oribatei (Acarina) in Burdwan Soil, West Bengal (India) (Somnath BANERJEE); On Some Oonopidae from Japan and Formosa (Araneae) (Paolo M. BRIANOLI); A New Species of the Genus Basilobella (Acari: Oribatei) from Calcutta, India. (A.K. BHADURI, D.K. CHAKRABARTI and D.N. RAYCHAUDHURI)
54. 大村昌久 (1974) グランチュウと私 (上). 日本医学新報, (2629): 63-65.
- 54 大村昌久 (1974) グランチュウと私 (下). 日本医学新報, (2630): 72-73
- 55 大村昌久 (1974) 衛生害虫の天敵としての7モ類. 1. 長崎県の家屋内に棲む7モ類の観察. 衛生動物, 25 (2): 153-160
- 56 大村昌久 (1974) 同上 2. 長崎市のに梅息する7モ類の観察. 衛生動物, 25 (3): 259-266
- 57 B.C. ROBINSON and M.H. ROBINSON (1974) The biology of some Argiope species from New Guinea: predatory behaviour and stabilimentum construction (Araneae: Araneidae). Zoological Journal of the Linnean Society 54 (2): 145-149

KISHIDAIA No. 40の編集は、とくに
 はじまっているようですが、原稿が2-3書
 きあがっており、遅れているとの由。該
 当者は頑強して下さい。吉倉真先生か
 らは、「研究についての玉稿を賜わり、KISHI-
 DAIAの特徴が出せたと思います。また、
 前にも紹介しましたが佐久間氏、金倉
 氏など、若手も頑強しています。

談話会も今年で10年目を迎える、よく
 こまごまと感じますが、若い会員の過
 去をふりかえるのは、これからすると先のこと
 としましょう。とりあえず、KISHIDAIA No. 40

の編集状況をお知らせいたします。(本2本)

1月5日、神奈川県 銀山権見近くの草地で、
 エラホシコク"チャハエトリの越冬巣をみつけま
 した。20cm角程のコンクリート石の下に
 (地中にありついた) 5mm x 3mm ぐらいの
 長円形の住居で、木の葉のうすい紙のお
 にみえるものでした。出入口はなく、また、中の
 7モは、透けてはみえませんでした。成長階
 階は、あと一回で成体と思われるぐらいの
 大きさ(いわゆる亜成体)で、目のハン紋です
 が、前肢がかなり大きくなっている。もう一段階
 前の卵をみせません。成体は、5月18日に近
 から採集されました。(1975) (本2本)



仰天「クモの巣芸術」。高さ5位の空中に張ったクモの巣状のネットを使って若い男が跳んだり、はねたり……。日展と東京展が同時開催されている東京・上野の都美術館で3日午後「クモ男」が出現、妙技?を演じた。この「クモの巣芸術」を演じたのは東京江戸川区東小岩、無職、花見直人さん(25)。約40分間「空中展示」を行ったが、上野署から「建造物侵入」というきつい警告を受けやっと地上へ戻った。

毎日新聞(社)「現代の視界」(212)
No.76 (75-11日) (小澤寛樹)

年末の合同例会も忙しさをこらえてもあられすまっさりたく残念。天にいたした。切板ご紹介のためお送りします。

東京蜘蛛談話会
1976年次予定

- 2.29 同定会 (目黒・大橋区民会館)
- 5月 採集観察会 (担当・高橋登)
- 6.13 例会・総会 (担当・栗原・田中(理))
- 7月(下旬) 合宿採集・観察会(2泊3日) (担当・壺嶋泉)
- 8.29 同定会
- 10.10 採集・観察会 (担当・碓田重石)
- 12月 三会合同例会

1月11日の運営委員会で、年次予定か上のように決まりました。少々、盛り込みで、これこそ、実力以上の予定かとも思いますが、担当者(実行委員長)が、それゆえか、なまの?、?なとかやれると思います。参加の席にご協力下さい。

また、6月13日の総会には、多くの?意見をあまらしています。また、次期運営委員の選任もあまらしていますので、多数の出席をおねがいいたします。(運営委員会)

第4回三会合同例会

昨年12月7日、目黒区立大橋区民会館で、合同例会がありました。第4回ともなると、準備よく、当日の準備もできましたが、なまの?集まりか遅れ、10:30より始まりました。前年800円の会費と、今年300円に?、行ないましたか、昼食か?、なまの?、おかし、おちいさや、ほうりあまりました。定例会からの参加者は、栗原輝代子・田中理恵・小野居嗣・松本成治・高橋登・蓮沼克己・佐久間良三・熊田憲一・松浦祐司・新海栄一・青藤博・高野伸二・佐藤幸子。古矢隆の諸氏14名で、他に、石井清・高野光男・佐藤英文・加藤笑子・野沢孝之郎・青木淳一・新海明・栗原幸夫・松田まゆみ・篠原圭三郎・加藤宏保の氏で、計26名でした。

(鈴木亮一) 自己紹介をいながら、発表を

れたい方は、近況などを詳しく話してもらい、そのあと、発表に移りました。発表の内容については、鈴木亮一氏が、編集の労をとり、いづれ、パンフレットになると「印刷」思いますが、この?期待下さい。簡単?か、報告しておきます。参加者の?なまの?、当日の会の感想を考えて下されば、幸いです。(松本)

＝7月同定会＝

1976年2月29日(日)、10:00am～
目黒区立大橋区民会館にて
参加費：300円。

当日は懇談会も行なわれます。
お知り合いの方の参加者歓迎いたします。
詳細は、同封パンフレットをご覧下さい。

(運営委員会)

昨年11月29日、平凡社別館2階ホールで「ECフィルム定期映画会」があり、萱島先生の講義のもと、3本の7本のフィルムが上映されました。7本の7本の卵の製作と産卵、7本の7本の一種 *A. labyrinthica* の胚発生、および、7本の7本の一種 *Cupienius saiei* の清掃行作の3本でした。その他に、ECフィルムには、*C. saiei* の脱皮、*C. saiei* の飼育の様子あきらかに、*C. saiei* の産卵と~~卵の~~卵の作成、*C. saiei* の卵の作成と産卵の失敗、*Theridion impressum* の仔7本の養育、*Theridion sisyphium* の仔7本の養育、があり、計9本がリストにのっていました。貸出料も少々高いのが、興味ある生態がみられました。なお当日は、ストリもかわからず、談話会関係者5名の出席がありました。(松本)

用語解説 — 6 —

[中山書店から刊行された谷津・内田:動物分類名辞典 pp.1133-1158 からの抜粋です]

- Allotype 別模式標本. Allotypus (独). 完模式標本と性を要にするた1つの標本で、その性が初めて記載されたとき指定されたもの。
- Holotype 完模式標本. Holotypus (独). 原著公表のとき模式標本として指定され、あるいは標本を決定する資料として表示された、種グループの7ツソンの一つの標本。
- Available name 適格名, 可用名(井上, 1963). verfügbarer Name (独). 命名規約のIV章を充足し、日付と著者名とを得た名称。国際植物命名規約の legitimate name に相当する。1つの7ツソンには、1つ以上の適格名があろうが、そのうち1つだけが有効名 valid name となる。cf. valid name
- Valid name 有効名. gültiger Name (独). 7ツソンに与えられた

- 正しい名称。1つの7ツソンには1つの有効名 T = "けをもつ。 cf. available name.
- Taxon (pl. taxa) 分類単位, 7ツソン, 類位(井上, 1963). Taxon (Taxa) (独). 任意の階級の形式的単位としての実在生物群 (Simpson, 1961)
- Binomen 二名式名称, 二連名(江崎, 1956). Binomen (独). 属名と種名とを結合させて構成された種の学名。≡ name of species
- Uninomial 一名式. Uninomial (独) 属群およびそれ以上の7ツソンに用いられる1名よりなる命名
- Catalog 目録. Katalog (独). 種の原記載の出典, シノム, 模式産地, 分布, 属の模式種などを表示したものである。cf. check list.
- Check list Checklist (独). 採集標本の種名一覽表。
- Cheironym 正式に発表されず、備忘的な学名 (Mayr et al., 1953). manuscript name とする。
- Conspecific Konspezifisch (独). 同一種に属すること。
- Definition 定義. Definition (独). 命名規約上1つの7ツソンを他から区別する形質の記述。
- Description 記載. Beschreibung (独). 1つの標本あるいは7ツソンの分類学的形質の記述。
- Genotype 1). 模式種. Genotypus (独). ある属の模式種と見なす1つの種と区別するため genotype とする。2). 遺伝子型 Genotyp
- Haplotype 単模式種. Haplotypus (独). 属グループの7ツソンに記載されたとき、模式種の指定なきも、その属グループ中にただ1種のみ含まれ (= monotypy) ている、それが自動的に模式種となったもの。

(用語解説続)

Monotypic genus-group 単種1種よりなる属グループ cf. haplotype.

Homeotype 同模式標本. Homöotypus (独). 模式標本と比較され、それと一致すると信ぜられた標本. = metatype, homotype.

Homonym ホモニム, 異物同名. Homonym (独). 同じ(公称)属の中の異なる種グループのタクサにつけられた2つあるいはそれ以上の同じ名称. あるいは同じ属グループ、または科グループの中の客観的に異なるタクサにつけられた同じ名称.

Identification 同定. Bestimmung (独). ある標本を既知のタクソンと同じで"あると定"めること.

Lectotype 後模式標本. Lectotypus (独). 原著公表後に純模式標本のうちから選ばれ、その種グループタクソンの模式標本として指定された1つの純模式標本.

Logotype 後模式種. Logotypus (独) 属グループのタクソン名が記載されたとき模式種の指定がなく、種に於て記載のときその属グループに含まれていた種の中から選ばれた模式種.

Lumper 併合派. 分類群をなるべく少数にまとめようとする分類学者に対していう. かかる方法を lumping 疎分(鹿間)という.

Splitter 細分派. 分類群を細分する傾向のある分類学者に対していう. cf. lumper.

Monograph モノグラフ. Monographie (独). あるタクサの分類学的知見の集大成.

Neotype 新模式標本. Neotypus

(独) 完模式標本や副模式標本あるいはすべての純模式標本が失われた場合に、公称種グループのタクソンの模式標本に指示された一つの標本.

Nomen dubium 疑問名. 既知の加ふるタクソンにも確実には適用されない名称.

Nomen novum. 新名. 既存の名称が先取されたとき有効となる代りの新しい名称.

Nomen nudum. 無資格名. 命名規則 12.16 条を充足しない 1931 年以前に公表された名称、または、第 13 条 a を充足しない 1930 年以後に公表された名称.

Nomen oblitum 遺失名. 古参シノニムとして 50 年以上主要な重か物学文献に使用されなかった名称.

Paratype 副模式標本. Paratypus (独). 模式系列の中の完模式標本以外の模式標本のおの. cf. type-series

Type-series 模式系列. タイプ組標本 (井上, 1963). Typuserie (独) ある著者が種を記載したとき確立したりする基礎とした標本のすべて.

Priority 先取権. Priorität (独) 無効でない最古の適格名を有効名とする権利.

Scientific name 学名. wissenschaftlicher Name (独). あるタクソンのラテン語あるいはラテン化された語の名称.

Species inquirenda 未確定種. 今後の検討を必要とする、同定のあやしい種.

Specific name 種名 ~~Art~~ Artname (独). 種のカテゴリーに属するタクソンを二名法であらわした

場合の第2節の名称, 亜種を三名法であらわした場合の第2節の名称. = specific & trivial name. これに対し種の名称 (name of species, Name der Art (独)) とは, 属名, 種名および著者名を連記した二名式命名による名称の全体をいう。

Synonym シニム. Synonym (独) 同物異名. 一つの同じタクソンに与えられた, 2つあるいはそれ以上の名称のおのおの。

Syntype 総模式標本. Syntypus (独). 完模式標本が指定されなかった場合, 表示された模式標本群の中のおのおのの標本。

Topotype 模式産地標本. Topotypus (独). 種グループのタクソンの模式系列のうち, 完模式標本と同一の産地 (type locality) で採集されたその種グループのタクソンの標本。

Type locality 模式産地. Typuslokalität (独). 一つの種グループのタクソンの完模式標本の原産地. = locus typicus.

Type-specimen 模式標本. Typus-exemplar (独). 種グループにおける一つのタクソンの模式である単一の標本. (完模式標本, 後模式標本, 新模式標本).

Vernacular name 通俗名. 俗名, 土俗名 (井上, 1963).

Landessprachlicher Name (独). 動物命名法の言語以外の任意の国語によるタクソンの名称。

Type location 模式標本の所蔵場所

(完)

新年のご挨拶を運営委員一同と共に申し上げます。

通信も無事2年目を迎えることが出来ましたか, ついに100%以上の郵便料が決まりましたので, 今後が無事かどうか, 心配ありません. KISHIDAIAを主軸に中心にして, 年1回としたので是非とも, この通信はつづけたらと思っておりますが, 外からの圧力はほまけてしまうかもしれません. よいお知恵などあるいは近況報告の重き事などでご協力いただき内圧を高めたんと存じます. 宜しく. No.9は, 値より前なの? 少しVolumeを多くしてしまいましたか, 内容はあまり変化がなく, たいくつされたかもしられません. 用語解説, 命名辞典からの採集は, いろいろ, 終了すべきと思えます. もとに運営に直接関係のあるものをと思っております. 希望の意見, あるいは原稿の協力があれば幸いです。

蔵書も底がさやうですので, 7月頃ある一切の文献を集めてもらってご協力下さい。

同定会については, 失敗を恐れず行ってみたいと思っております. 個人的にしていたのを, ちゃんと大きく, Officialにした方がいいです. 成功すれば, 大きくしてみたいと思っております. 乱筆多謝(すく本).

東京蜘蛛談話会

本部: 191, 日野市豊田1896. 萱嶋泉
phone. 0425-81-7128

事務局: 185 国分寺市本町1-6-6 新海
phone. 0423-421-0289

編集局: 211 川崎市中原区小杉町1-540
小野恵嗣也. phone: 044-722-2225

1976年度会費. 1,000円.

KISHIDAIA, No.39, 通信. No.9号? 発行

本通信の発行責任者は, 本会事務局です.

phone. 0423-42-0906